

## 12月全校集会・校長先生の話

2020/12/01 校長



12月になりました。後期が始まって、二か月近くが経ちます。

11月には、三日間にわたり、学習発表会が行われました。例年ほど参観の先生方は多くありませんでしたが、参観された先生方からは、たくさんほめていただきました。

学校の環境、教室の環境がよく整っている。廊下のロッカーや空き教室も含め、きれいに整頓されている。学校全体に、ほどよい緊張感がある。生徒のみなさんが、目を見て挨拶をしてくれて、温かい気持ちになった。和やかで、落ち着いた雰囲気の中で学習が行われている。男女の分けへだてなく仲間と楽しく学習している。一人残らず全員が真剣に学習に向かっている。

先生方の指示や説明が多すぎる、もっと生徒に発言する機会を与えるべきだ。生徒が自由に学習できるように先生たちが工夫して、生徒をもっと活躍させるべきだ、という意見もありました。

これらの言葉は本当にうれしいものでしたが、学習発表会が終わった今も、こうした姿が続いていることを、私はうれしく思います。残り3か月、あるいは4か月です。さらによりよい授業をつくっていきましょう。

さて、みなさんは今、文化交流会に向けて、合唱練習に励んでいます。そして二週間後には、サランカホールで各学級が歌を歌います。

ここで確認したのは、文化交流会の目的です。当然その目的は、仲間とのつながりを強くすること、学級文化を確かめることです。けれども私は、それだけではないと思っています。私は、仲間と活動する中で、みなさん一人一人がよりよい自分をつくっていくことも、その目的だと考えています。

仲間といっしょだと頑張れます。仲間といっしょだとサボることができません。仲間と活動する中で、自分の弱い心を見つめることができます。中学生のみなさんなら、そうした弱い心の自分と、こうなりたいという思い願う自分とが、心の中で対話できるはず。そして、その対話の中で、よりよい自分を見つけ、実際の自分がよりよい自分になるよう、発する言葉や行動を変えていくことができるはず。

私は、この文化交流会の取組がそんなきっかけであると、とらえています。

ではなぜ、文化交流会の取組などで、よりよい自分をつくっていく必要があるのか。

三年生のみなさんは、4か月後、どこにいるのでしょうか。4か月後、みなさんは新しい学校あるいは職場にいます。そこには、自分の知っている人が誰一人いないかもしれません。けれどもみなさんは、そこで新しい生活を始めなければならないのです。

一年生、二年生のみなさんも、二年後、一年後には、同じ状況を迎えます。

その時、みなさんが、一人でもその状況に立ち向かえる自分であってほしいと思うのです。そして、その自分づくりは今、仲間といっしょに取り組んでいるから、できることなのです。

多少の不安があっても歯を食いしばって頑張れる自分、その不安をじっと耐えることができる自分、いやなことであっても前向きに受け止めてやっていくことができる自分、調子がよい時でも浮かれることなく自分を冷静に見られる自分、そして、つらい思いをしている仲間に気付き、そうした仲間を優しく支えられる自分、そんな自分づくりを、この文化交流会の取組から始めていると考えてみてください。

三年生のみなさんは聴くことができませんでしたが、シンガーソングライターであり、卒業生である見田村さんは、ウェルカム・アーティストの場で、みなさんに「夢が叶わなくても、失敗しても、自分をダメな人間だと思わないでほしい。自分を好きでいてほしい。」と話されました。こうした自分も、よりよい自分の一つのモデルかもしれません。

文化交流会の取組をとおして、ひとまわり成長した一人一人として、みなさんがサラマンカホールステージに立ってくれることを期待しています。